

平成 29 年度消防団員等公務災害補償の概要

(災害補償課)

平成 29 年度における損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額について、その概要を紹介します。

1 平成 29 年度における損害補償費等支払状況

平成 29 年度の損害補償費の支払件数は 2,307 件で前年度に比べて 52 件増加 (2.3%) し、支払額は 1,748,792 千円で同 45,711 千円減少 (△ 2.5%) しています。

また、福祉事業費の支払件数は 924 件で前年度に比べて 19 件減少 (△ 2.0%) し、支払額は 411,004 千円で同 10,492 千円増加 (2.6%) しています。

(1) 損害補償費

支払件数について種類別にみると、療養補償が 1,414 件 (損害補償費全体の 61.3%、前年度比 62 件 (+ 4.6%)) と最も多く、次いで、遺族補償の 614 件 (同 26.6%、同 △ 13 件 (△ 2.1%))、休業補償の 150 件 (同 6.5%、同 + 13 件 (9.5%)) の順

となっています。なお、この 3 種類で損害補償費全体の 94.4% を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族補償が 1,239,461 千円 (損害補償費全体の 70.9%、前年度比 △ 33,995 千円 (△ 2.7%)) と最も多く、次いで、療養補償の 259,544 千円 (同 14.8%、同 + 7,322 千円 (+ 2.9%))、障害補償の 193,299 千円 (同 11.1%、同 △ 15,447 千円 (△ 7.4%)) の順となっています。なお、この 3 種類で損害補償費全体の 96.8% を占めています。

なお、平成 29 年度に支払った主な障害補償については、建物火災に出勤し、現場到着後、状況を確認するため前にいた団員をかき分けて進んだところ、足元にあった河川に気付かず転落、右上腕肩大結節部剥離骨折し、その後遺障害として、肩関節の機能障害と判断されたものなどがあり、また、主な遺族補償 (死亡事案) については、豪雨災害による地域巡回中に発生した大規模な土砂崩れに巻き込まれ、一次性脳幹外傷による死亡と確認されたものなどがありました。

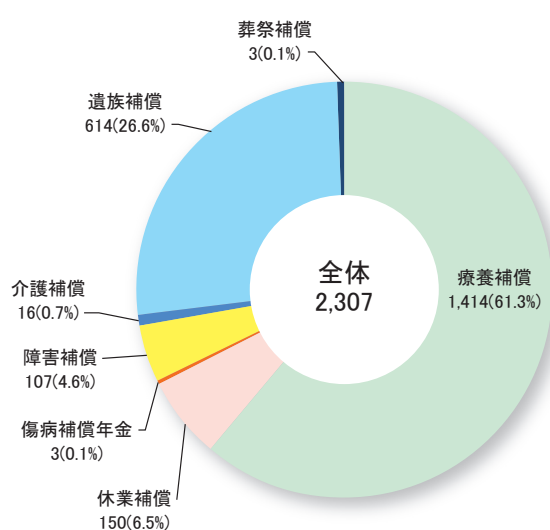


図 1 損害補償費支払件数 (単位: 件 (%))

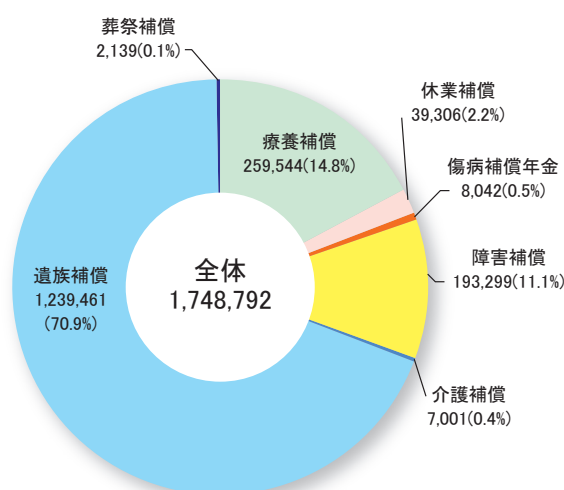


図 2 損害補償費支払額 (単位: 千円 (%))

注 割合及び全体は、端数処理により一致しない場合がある (以下図において同じ)。

表1 損害補償費における対前年度増減比較

区 分	増 減		主 な 要 因
	件 数	金 額	
療養補償	62	7,322	請求件数の増
休業補償	13	2,081	請求件数の増
傷病補償年金	△3	△4,430	受給者の減
障害補償	△6	△15,447	受給者の減
介護補償	△2	△2,144	受給者の減
遺族補償	△13	△33,994	受給者の減
葬祭補償	1	902	請求件数の増

(2) 福祉事業費

支払件数について種類別にみると、遺族特別給付金が530件（福祉事業費全体の57.4%、前年度比△9件（△1.7%））と最も多く、次いで、休業援護金の147件（同15.9%、同+12件（+8.9%））、障害特別給付金の97件（同10.5%、同△8件（△7.6%））の順となっています。なお、この3種類で福祉事業費全体の83.8%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族特別給付金の238,082千円（福祉事業費全体の57.9%、前年度比△6,340千円（△2.6%））と最も多く、次いで、遺族特別援護金が55,800千円（同13.6%、同37,200千円（+200.0%））、障害特別援護金の39,568千円（同9.6%、同△4,066千円（△9.3%））の順となっています。なお、この3種類で福祉事業費全体の81.1%を占めています。

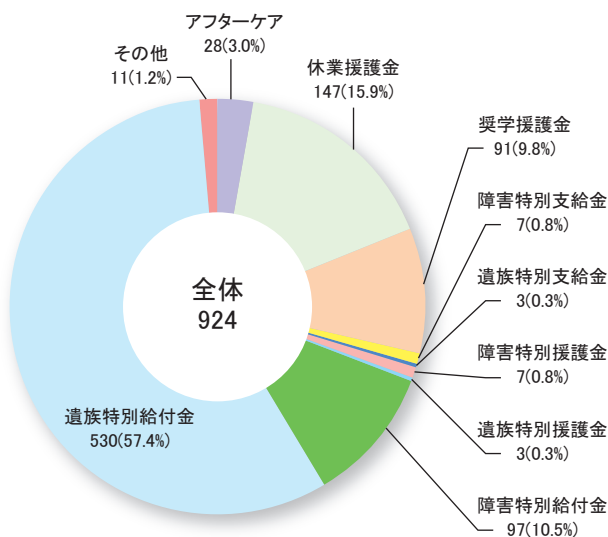


図3 福祉事業費支払件数 (単位: 件 (%))

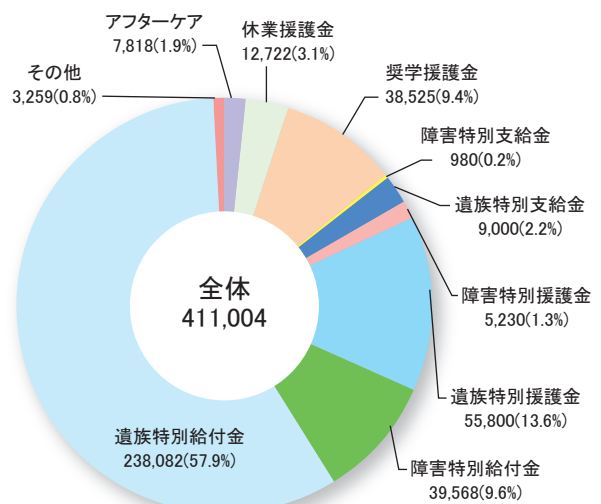


図4 福祉事業費支払額 (単位: 千円 (%))

表2 福祉事業費における対前年度増減比較

区 分	増 減		主 な 要 因
	件 数	金 額	
補装具	△3	△510	請求件数の減
リハビリテーション	0	△175	請求単価の減
アフターケア	1	2,105	請求件数の増
休業援護金	12	726	請求件数の増
奨学援護金	△2	△30	受給者の減
就労保育援護金	△1	△624	受給者の減
傷病特別支給金	△1	△1,000	請求件数の減
障害特別支給金	△4	△3,470	請求件数の減
遺族特別支給金	2	6,000	請求件数の増
障害特別援護金	△4	△17,700	請求件数の減
遺族特別援護金	2	37,200	請求件数の増
傷病特別給付金	△2	△596	受給者の減
障害特別給付金	△8	△4,067	受給者の減
遺族特別給付金	△9	△6,339	受給者の減
長期家族介護者援護金	△1	△1,000	請求件数の減
旅行費	△1	△28	請求件数の減

2 最近5か年間における損害補償費等支払状況の推移

平成25年度から29年度までの年度毎の損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額の

推移をみると、平成22年度末に発生した東日本大震災の影響も薄らいできたため支払額については漸減傾向にあります。支払件数については、概ね横這いの傾向にあります。

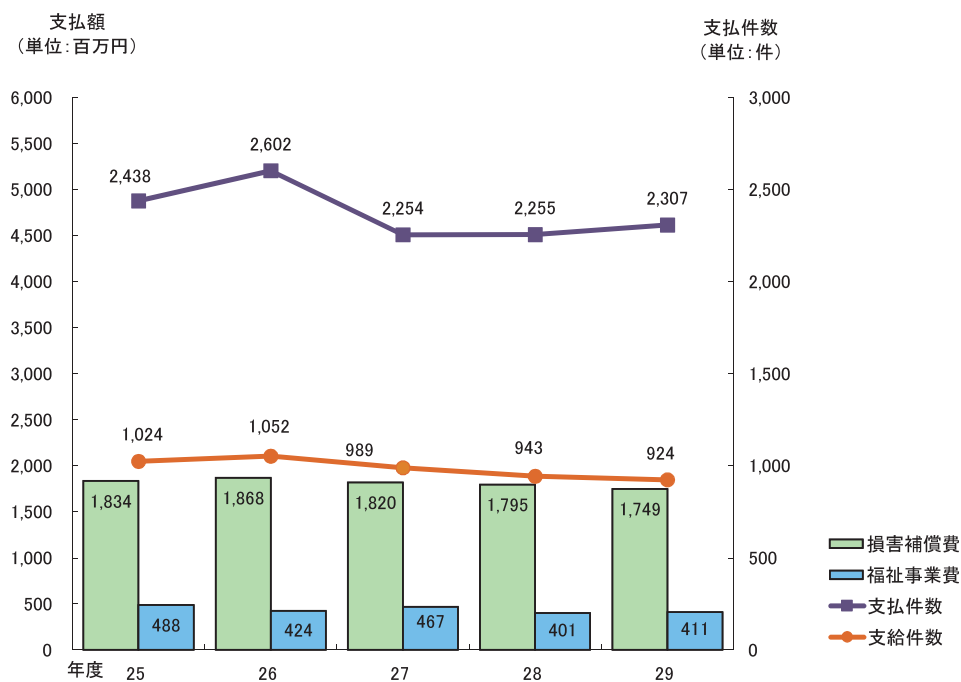


図5 最近5か年間の推移